



学校だより

和歌山市立四箇郷小学校

平成29(2017)年度: No.1

4月号 文責/校長: 上田 仁

心機一転

4年ぶりにここ四箇郷にもどってまいりました。これまで休日に私用で学校付近にきた際、思わず懐かしくなって遠回りをして校区内を回ってみたこともありましたが、校内に入るのは全くの久しぶりです。あの頃と同じところや変わったところを五感で味わいながらの1週間でしたが、子ども達が登校する今日以降、また素敵な体験ができるという思いでわくわくしています。

学校の雰囲気、つまり校風は何で決まるのでしょうか。以前よく言われたのが、「校長が変われば学校が変わる」という言葉。確かにそうでしょう。

1階の廊下を少し歩いただけで、自分が勤務していた頃より、きれいになり整えられていることに少々驚かされました。もちろんそれは、湯川校長とともに職員それぞれの意識と責任感と目に見えないところでの努力の成果であることは明白(それとともに過去の自身について反省)。今後もどれだけ維持改善できるかが自分の責務のひとつだと思っています。そして何より大切なのは、お家の方や地域の方とのこと。これまでいろんな場所や機会で、その関係性を重要視する言葉や話を見聞きしてきましたが、今後は制度として各校が取り入れていくことが必要となってきています。県内全体でそういう動きが始まっているのです(詳細は機会を改めて...)。人と人との関係性をこれまで以上に築いていくことが、学校運営に必要不可欠というわけですね。

私(わたくし)は四箇郷に愛着をもっています。簡単に言えば大好きです。校舎から見える景色、吹き渡る風、雨のにおい、人々が生活する音…。でも何よりも、この四箇郷で生活する方々のことが好きなのです。私が勤務していた頃の子どものほとんどが卒業し、顔見知りのお家の方もずいぶん少なくなりました。これから心機一転、人とのふれあいを第一にしなければと、今更ながらに思っているところです。

結局は人あっての学校。子どもとお家の方と地域の方々と職員が、ともに考え、悩み、解決し、ともに笑顔で前向きに進んでいくことを、お題目を唱えるだけでなく私自身がその姿勢を背中を示すことが理想かなと考えています。校風は人がつくっていくものですから。

.